

◆ 座 談 会 ◆

現職研究会の活動

10月14日

—みつめ直し問い直す—

子子束子子子子繁子  
代称千で恵代京美  
美美ひ千美中辺美  
羽子崎原藤水中木  
赤金川北近清竹野光

◆ 話題提供 — 今日の保育から —

A どうにか運動会が無事におわりましてやっとな日はうかがったのですが、また皆さまに運動会のご経験などいろいろうかがって、来年の参考にさせていただきますかと思えます。

B この間も堀合先生とお話したのですけれど、運動会で、どういう意味でブレイメンの音楽隊をなさったか、それを

うかがいたいと思うのですが……。

A それをね、今日、やった方たちにうかがってければよかったんですけど……。(笑い) “どうして運動会にブレイメンの音楽隊をやるの？” “ってきくひまもなく、年長の四人の先生の考えがそれにきまってしまったわけなんです。ブレイメンの音楽隊っていうのは私たちよく劇や何かでは知ってますけれど、それを全部、音楽から何から構想してやるっていうことはとても無理なので、“あなたたち大丈夫？” “って申しました。そしてら“それを、やってみようと思うんです。上手下手というのでなしに” “というんです。実は、お誕生会の時に先生方がそのブレイメンの音楽隊をやったんです。そして子どもがとても喜んだので、今度は子どもにさせようということだったんです。

さて “四クラスの子どもを全部解体して、役割をきめてなんて大変じゃない？” “

なんていったんですが、とも角当日は、ちゃんと場面場面にわかれて、何とかやれたと思えました。

**B** そういう意味じゃなくて、劇遊びとしてやるのなら、ブレイメンの音楽隊をおとりあげになったこともわかるんですけど、運動会っていうと何か、リズムにのって体を動かすとか、そういうねらいがありますね。その……中味っていうんでしょうか、ありますね。そこにページェントのようなものをもっていらした、そのねらいはどういうものなのでしょう。音楽隊というところにもってきたいから、こういうふうにしたのか、一つ一つがリズムに合った動きになっているからとか……そういう意味のものなのでしょうか？

**A** それはね、一つ一つのところに音楽を入れてるものを選んでいました。

**B** それはわかるんですけど……、たとえば、運動会でよくとりあげる、

一つ一つの「花笠おどり」とか「お花の体操」とかありますでしょ？ そういうのだといわゆる運動会向きということになりますね。

**A** いいえ、そういうのでないのをやりたいというのが先生たちのねらいだったみたいなんです。ですから、「堀合先生にいろいろおならいしたんだから、あの中のをやった方がお子さんにはいいんじゃないの？ たとえば白雪姫なんかでも」ともいったんです。

**B** いいえ、その堀合先生のなさったものをというんじゃないんです。白雪姫といたってやはりこれは運動会向きじゃないと思いますし……。

実はある幼稚園で今年の講習で堀合先生がなさった「昔ばなし」を運動会にするっておっしゃった先生があるんですけど、それで、その先生方が、運動会でするものとそうでないものと、中味っていうんでしょう。つまり要素的なものが

違うっていうわけで論争がおきたっていうことなんです。そういう意味で、先生のところの「ブレイメンの音楽隊」だけじゃなくてもほかでも劇を運動会になさるっていうことをうかがったことがありますので、そういう方たちがどういうことをねらって、何のためにそういうことをなさるのかっていうことなんです。「ブレイメン」であろうが「白雪姫」であろうが「大きな大根」であろうが……そういう、題材の問題じゃなくて……。

**C** 私ね、そういう考え方がいいか悪いかは、先生方が現場にいらしてどうお考えになるかわからないんですけど……、子どもの表現、自由表現というのは、やっぱり日ごろ、ちようだとか、とんぼだとか馬だとか、牛だとか象だとかいう表現は、短い時間だとけっこう楽しみますが、長い時間の表現は果たして子どもが楽しめるかどうかということは、非常に問題があると思います。それで私

は、今先生が野外劇とおっしゃいましたけれど、その自由表現というものを子どもたちでも心を考え、場面を考えながら……そしてそれを言葉でなく動きで表現できるということは、幼児の表現の中では実に大きなものを持つと思います。

そして、部分的な、人の表現であるとか動物の表現であるとか、象徴的なもの表現というのが、本当にとり組めるのは、私が子どもたちをすーっと見ていた段階では、もうすでに二歳の後期から、三歳になるともうできるんです。動作の上手下手は別として……。そうすると、そういうものを五、六歳まで、もっていきべきかどうかということを私は疑問を感じるので。

しかし自由表現というものは、子どもが思い切り表現をするならばステージでは狭すぎると思っています。やっぱり大勢の子どもが思い切り楽しむのには、運動場ぐらいの広さがあった方がいいと私は

前から思っていました。だから、年長組の子どもの表現、動作表現の中にいわゆる劇を運動会にもつてくるということにどういう意味があるか、ということは、大人が考えることだと思います。こういう子どもたちの表現を、ずっと引き続けようと、小学生になってもっと大きくなると、機械の表現だとかももっと複雑な現象だとか、心理的なものが出せません。

しかし、ああいう物語というのは、子どもたち自身が音楽に合わせて、思い切り表現を出すのならば、やっぱり運動会にとりあげていい教材じゃないかな、と私は思っていたんです。ただし、それをうまくやっていける先生が、果たしてあるかどうかということに問題はもっていません。

そして、先生は野外劇とはっきりおっしゃいましたね。野外劇なんです、たしかに。なぜかっていうと筋がありますからね。だから、非常に劇的な要素をもつ

ているけれども、それを運動会で子どもたちがした場合にはやっぱり、音楽と体の動きだと思っています。そして、その劇の運びはあるいは大人の言葉で補っていかなきなり立たないのではないか、そうすると、ステージで行なう場合とは少し違ってくるのではないかと思うんですが。

A 言葉と音楽とをね、ちゃんとそこに入れて説明の場面があるんです。それをきいて次に音楽が流れますと、子どもが立ち上がって何かをするっていうふうにとりあげてやっていって、最後はこう静かに眠っているという場面もと入れましてね。そして本当の最後はそろってプレーメンに向かって行く、というのが。いろいろな表現をして、太鼓をたたく子どももあり、まあ、バイオリンですか、チェロですか、あらゆる、いろいろな音楽があるでしょう、ということ、それを話したのかどうか知りませんが、みんな

な違った動作をして、真似をしないで退場していったんです。それがすばらしかったわね”というのを私はいました。

### ◆運動会をどう考えるか

D 先ほどのご質問では、同じ運動会という言葉は使っているけれども、今までえがいていたイメージの運動会ではない……。

A ええ、ないものをやったわけですから、”運動会”という言葉はお使いになったわけですね。

A ええ、やっぱり”運動会”というものの中で、普段のいろいろな生活も合わせてやりましたので、”とてもむずかしいんじゃない?”などといいました。でも私がそういったことでまた皆が発奮したということもありますし、また私の方一人とてもよく音楽的にもすぐれた先生がいて、その先生にまわりもひきずられていったということもよかったです。

と思います。ですから、音楽的にすぐれた者が一人いないと、いかに着想がすぐれていてもそれは無理だとも思いました。が、一人をほめることはさけて、”皆で相当これは考えた作品ね”と私はいったわけです。ともかくお面でも何でも皆いろいろ考えて、泥棒のめがね一つでもいろいろおもしろいのがありました。

B さつきC先生がステージでは子ども表現が少ないとおっしゃいました。が、たしかにそうだと思います。それで、ステージでするにしても、たとえばチビクロサンボ遊びのトラなんかでも、まず、外でトラごっこというような形で、ウォーウォーとさんさん遊んで、そして、それを今度はステージの上でどう表現するか、というふうにもっていくのだと思います。ですからA先生のおっしゃっていることはわかるんです。ただ、私は拝見してないし、想像もつかなかったのですね、教えていただきましたんですけれど……。

ど……。  
劇遊びでなく、すばらしい広い所で、しかも運動会っていうのはまわりが全部お客さまです。そういうようなところで子どもの動きというものの野外劇をやって、子どもの表現は出ないし、何をやってるかわからないし、服装もそれほどはつきりわからないという時に効果をあげるといえるのは、とてもむずかしいことなんです。

C 私ね。ステージにおける劇遊びも、やはり音楽リズムの中の分野です。この野外劇、自由表現を主体にしたプレーメンの音楽隊という教材も、劇ではないとはいませんが、ただ、出てくる動きというものは全然違うと思います。どうしても私たちの頭の中には、ここでも何回も先生方がなされた動きを中心にした劇遊びというものがあります。ステージにもっていきけるような。そういうイメ

1ジがとても強いと思いますけれど、私はそれを全然消して、さつきB先生がおっしゃったように子どもにトラの表現をさせたり、ブレーメンにしても、泥棒ごっこをしたり、いろいろなことをしてからステージへもっていく、その過程を運動会にもっていかまわらないと思うんです。

ただ、私たちの頭の中であまりに区別しすぎて、そのわくで子どもたちにあれこれしようということから、私自身にしてもいろいろな接し方をするわけです。

ですからここで先生方のお話をきいていてもドキリとするようなことがよくあるんです。あ、やっぱり大人が子どもに接する時には、いかに子どもを尊重してやっているといっても、どうしても大人の考えが、ところどころに出るんだなあ、ということをおつと、悲しく思ったり、さびしく思ったりすることがたまにですけれどあるんです。

それでこの間も、運動会のお面の話がずいぶん出ていました時に、やっぱり、大人に見せるということでも子どもに恥をかかせない、その思いやりはやはり私たち大人の思いやりですけれど、そういう話が出ました。それで今日ブレーメンのお話でも、私は、たとえその動物が人間的な顔をしていようと、何しろ子どもが

胸をはってやるところから大人たちは素直にそれをうけとめて、大人たちが子どもから教えられて帰るといふ場面がたくさんある、その一つじゃないか、ということをおつとしました。私たちは本当に毎日子どもと接していないのであまり大きなことはいえませんが、しかし願いとしてみていることは、大人と子どもが接している場面では、本当に子どもの、どうしたらなれるか、そこへいくと良寛さん

や一茶が出てくるんですけれど、私たち保育者がそこまでいくのはどういう遍歴をへていくのか、どんな修業をしなけ

ればいけないのかということがいつも私の中でいきつ戻りつしているんです。

G 私、C先生のおつしゃることはよくわかります。それで私がこの前申し上げたのは運動会のあり方、どういう目的で運動会をするかということでしたね。

それから私も前にチビクロサンボをやったことがあります。運動会で。それは、あれは筋が単純なことと、あれはおつかいっこがありますね。それでどうにかC先生のおつしゃる野外の大きな動きができるんです。

私もA先生のお話をうかがっているとき、ブレーメンの音楽隊は、運動会でするには少し複雑すぎやしないかということを思うんです。やっぱり運動会のあり方っていうものを考える時に、それは、どうお考えになりますか？

C そういう反省は、私もあって当然だと思います。

E ただ前にも申し上げたように、こ

のごろは親子で楽しむという機会が少ないので、運動会にいらして下さったお父さんやお母さんのためにも、どんなに高度であってもピンと、あ、ああしてるんだなっていうのが理解できなきやっということが、運動会の一つの要素としてあるように思います。

F 私も去年よその運動会を見せていただいてね、「花咲じじい」だか「桃太郎」だかやってるんです。でそのさっきC先生が、屋外だったら広いからステーションに全部が出られて、屋内だと全部が出られない悲しさっておっしゃいましたけどね、私はその反対なんです。その運動会では「花咲じじい」だか「桃太郎」だかしてるんです。そうしましたら、まだ出番じゃない子が真中でかたまってる先生の合図があるまで待ってるんです。日はカンカン当るし、その間中先生が「静かに、静かに」ってやってるんですね。やってる子は夢中になってやって

て、「よく見てらっしゃい、もうじきよ、もうじきよ」って先生はいっても、やってない子は手持無沙汰で、下に何か書いたり、それを無理にとめられ、日はカンカンで、私は残酷物語を見てるようでした。

運動会っていうのはね、私はやはり広い所で体を動かして、何かこう自分が躍動するようなふんい気をね、何かをやってるっていう楽しみを味わうもので、待たされて暑い日の中でやるんじゃないか……あれを何で運動会にとり上げたのかしら、と思います。

C だから私がさっき申し上げたように、それをとり上げて、うまくやれる指導者が果たして何人いるだろうか……。

E うまくやってもね、それを日なただ長いことまたされて……。

C そこが先生のやり方になるんじゃないでしょうか？

B 私はね、外で、そういう遊びとし

て大いにやるのは、運動会じゃなくてもいくらでもできると思うんです。(そう、それは事実です)だから、そういうことをすることは、非常に大事だけれども、なぜ運動会にしなきゃならないのか、とり入れたかを教えていただきたいって思ってます。

G A先生のお話をうかがっているかぎりでは、何で運動会にそれをとり上げるかじゃなくて、運動会にそれをとり上げたっていうことに意味があると思います。だから、先週先生のおっしゃった運動会のあり方っていうことに関連して、くるとんじやないかと思えます。

さっきC先生が、子どもになろうとしてもなれない大人、なれない所が時々あるとおっしゃいましたが、でもやっぱり私たちは大人で、子どもと一緒にやっていると、子どもと一緒にやっていると、そこところが大切なんじゃないかと思えます。A先生のお話をうかがっても、そのプレーメンの音

楽隊を作る時に、すばらしい先生がいら

っしやりながらも、子どもと一緒にやっ  
ては、この所はいけなかったかな、も  
う少しこういうふう工夫してみようと  
いう、本当に子どもと大人がこう、一緒  
になって総合的にやっていくという姿が  
よく見えて、ここだなんて思ったんで  
す。

それからお面の問題にしても、子ども  
的になれないって言うのか……子どもが  
最初に作ったのがとても小さかったの  
で、これじゃ見えにくいからもう少し大  
きくした方がいいっていうのはやっぱり  
大人の考えで、それはやっぱりいいのだ  
と思います。それから、それがとても人  
間の顔みたいでどうしてもクマには見え  
ない、でも、それでもそれを使うって  
いう、そこら辺の大人と子どもがからみあ  
って一つのものを作りあげていく、とい  
うのが大切であって、何かそこをぬぎに  
しないで、そこそが大切じゃないかな

って、今、思いました。

**C** 私、今うかがってて、教材そのも  
のを何をとり上げるかっていうこと、こ  
れはいろいろ研究の余地はあると思いま  
す。

**G** それが、一方的に大人の方から出  
すんじゃないくて、A先生のお話では総合  
的に、子どもと一緒に作り上げていくつ  
ていう過程があつたんじゃないでしょ  
うか。

**C** そうです。それともう一つ、さっ  
きおっしゃったように、子どもに先生た  
ちがして見せたら、子どもが非常に喜ん  
だからってという動機が、おありでしたね。

これはもうさつき先生のおっしゃった、  
よく動くものとかさうでないかというこ  
とは観点が違いますからね。私、運動  
会に何を観点にもっていくかということ  
からはやっぱりさういう反省はたしかに  
いるものだと思います。

**B** 先生方のおっしゃっていらっしや

ることは、大変大切な要素だと思っ

す。でもその要素は、運動会でしなけれ  
ばなりたないものではなくて、幼稚園  
の生活っていうのは、もともとっと大き  
いんですから、ほかにさういうことをし  
てやれる場面がたくさんあれば、運動会  
はどういうふうにもっていったらいいか  
という考えが、大人として演出して出  
てくるわけじゃないでしょうか。

**C** 私も、B先生のおっしゃることは  
とても大事なことであるし、当然運動会  
でブレイメンをやったあとに出てきてい  
い問題だと思えます。さっきのE先生の  
ご意見もね。

**G** 運動会も子どもの生活の一面  
で、特に特別なことをするのでなく、本  
当に積み重ねのある一日っていうのが運  
動会なんでしょうね。

**B** 運動会は大切だということになる  
と、運動会のための練習っていうよう  
なものが、その物ずばりじゃなくて、基本

的な断片的なものの積み重ねをやってて当日にパッと出せばいいんですけれど、それだけの場面上手に見せようとする、そこに無理がありやしないかということを現場としては考えるわけです。

だから、ぶっつけ本番でもやれる運動会にするにはどうしたらいいかとか、それはそれぞれの幼稚園によってねらいと、もち方によって違ってくると思うんです。そういうことから考えて、いろいろな場面から考えて、それが適当か、不適当か考えてみないといけないと思います。

A それでね、今日は努力してまいりましたの。(笑い)それだけのことをやるということ、私も一人の参加者として見方とかそういうことを研究しなきゃならないと思ったのでまいりました。また若い方たちにただだめだめだといっても、私自身がよくわからないのに頭からだめだというより、それじゃどこまで

やれるかといって、ここまでできたことは認めてあげたいと思っております。

また、ふだんの生活が大切だということとは本当にそうだと思います。ずっとお休みをしていて運動会当日に来た子でも鳥さんならできるわねといえは何とかやってましたし……。

B 私はむしろ、今野外劇というようなものがどちらかといえはブームなんです。それをまだ私のところでは、運動会というとただ走ったり、なんだりで、そういうことをとり上げていないので、教えていただくと思ったわけです。

A はい、よくわかりました。私もです。すから、初めはもう少しふだんやっているようなものをとりあげたら……:…:というよりもいったわけです。それでもということに限られた時間の中で、先生たちが非常にいろいろと苦労してやったわけです。私としてはやはり見せる運動会ということを考えたりしましたが、結局ここ

二、三年、先生たちが勉強してきたというところもよくわかりましたし、八年目に初めてこういう運動会をやってみて、おもしろかったな、よくやったな、と思いました。

#### ◆運動会の新しいイメージ

A 外国では、運動会というものはございませぬ。でも、この間モスクワから帰って来られた方の話では、春なら春、秋なら秋、とり入れの場面を、体育祭で(運動会じゃなくて)全部の子どもが稲穂をもって、音楽に合わせて穂をバツと出したりするんだそうです。ああいうものを日本にもってきたいんじゃないかと思つてきたらいいんじゃないかと思つてきました。風のゆるるようす、雨を本当に降らすとか、そういう実際の農場の姿を子どもの中に表現させる、それは小学校二年の子どもの体育祭だったそうです。ですから同じ体育祭でも、スケールが大きいとい



うんです。日本のようにチヨコチヨコツと何ぐみ、何ぐみというのではなくて全部の民族（三十いくつがございますね）そういうもののお祭なんです。日本でもそういうものをやったらすばらしいんじゃないかなっていうことをこの間ききました。

それにはよほど芸術的な要素も高くないやいけませんね。やはり音楽の素養がなければこれはできないものですから……。私どももやはりそういうところに、きくだけでも、勇壮なもの、静かなもの、そういうような態度が必要だと思いました。なかなか日本、ことに私どもの幼稚園でそういうものをねらうのは無理かもしれませんが、そんなものもすてきだなあと人の話を聞いて思いましたの。

**B** 私もまだ見せていただいたことはないんですけど、ある幼稚園で、とてもユニークなことをしていらっしやるん

ですが、去年は「ドイツ」というテーマで運動会をなさったんだそうです。ドイツの大使館へいらして物産やら何やら調べていらして、子どもは何となくいわゆるリレーとか競走とかするんですけど、それを全部ドイツに結びつけて、PTAのダンスもローレライをとりあげるとかなさってすばらしかったそうです。

今年のテーマは「海」なんですって、それで最後は宝島から帰ってきた船に向かってみんなが賞品をとりに行つて、ワァーッと行つて終わるといふ構想をしていらっしやるんだそうです。

私今年はずい見せていたきたいと思つているんですけど、運動会ってやはりそういうふうを考えるべきものじゃないかなって思ふんです。

**E** そりゃね、私も海だったらとてもすばらしいと思います。ドイツはちょっとおかしけれど……。

**B** それは音楽からきたらしいです

よ。だから、じゃあうちは「花」でやるかなんていったんですけれど……（笑）  
ですから運動会に対する考え方が、いつもの運動会というだけじゃなくて、子どもの方はそれなんだけれど、先生の方がうまくまとめあげるといふ、そういうことも大事なんじゃないかなと思ふんですけれど……。

**E** 海だったらいいですよ。海なら、子どものイメージがたくさん盛られるでしよ？

**B** ところがね、ドイツということ、大使館からスライドを借りていらして、それを見せたり、音楽を流したりなさったんですって。そうしたら子どもがとても興味を示してドイツ大使館の方もクッキーを持っていらして民族衣装をきて運動会に参加なさったとか、和気あいあいとしたすばらしい運動会だったとうかがいました。

**E** 海っていうのは水と子どもとの関

係が深い上に、海っていうのはおとぎ話や何かで子どものうけるイメージがたくさんあるでしょう。大人が教えたものじゃなくて、海ってきいただけで子どもにはいろんなイメージがわきますね。

**B** その、テーマをきめてやるということ、これはうかがえはなるほどだと思いますけど、考え出すのは大変なことだと思います。

運動会っていうものは、どういうふう  
に考えたらいいのかしらって、すむたび  
に思うんですよ。

**C** そうやってお話しかがうと、いろ  
いろあるんですね。

**H** うちの園庭がせまいもんで借りる  
んです、いつも浜田山の三井グラウンドの  
広いところでやるんです。広いところが  
いいと思って……。ところが十月ってい  
う月はもう満員で今年は十一月七日なん  
です。皆さん夏休みが終わるとすぐ運動  
会の練習なんてなさいますけれど、うち

ではのんきに遊ばせるんです。そして十  
月中ごろから、じゃあちょっと手をつな  
いで歩いてみましょうかなんて始めま  
す。ちやうどそのころは涼しくて、さわ  
やかで……。そのさわやかな中で十分遊  
んだあとですぐまとまりがきちやうんで  
す。先生たちも余裕しやくしやくとして  
ますし、非常にスムーズに「運動会」な  
って気ばらないで楽に入れるということ  
で、これは、時期が、何も十月の天高く  
馬肥ゆるなんとかなんていう時じゃなく  
ても、時期外れにこういう体を動かすっ  
ていうことがあってもいいんだと思っ  
ました。

何かこう、行事が何月にとらわれるっ  
ていうようなことがなく入れるというこ  
とはいいなあと思いました。それから先  
日、C先生が子どもが一生懸命やれば、  
真似してもそれは模倣にはならないとい  
うことを痛感いたしました。それで先日  
創作舞踊の先生にいらしていただいて、

子どもの前でインディアンをやっていた  
いただきました。すると子どもはそのあとで  
先生の通りにインディアンをやるんです  
けれど、顔見ると、本当にインディア  
ンになっちゃってるんです。そしてそれ  
から、やっぱりインディアンが違うんで  
す。ちやうどその時、マリア・アンダー  
ソンのレコードがあつたものですから  
「これはインディアンではないけれど、  
色のくろいおばさんが歌っているのよ」  
とって帰る時にかきましたら「これは  
インディアンだ」っていつて最後まで真  
剣に、むずかしい黒人靈歌ですから何か  
訴えるものがあるんですね、じーっとき  
いて帰りました。

私たちは、やはりその先生のように  
は、技術がないので、動きがとれないん  
です。でもすばらしい動きを見せてい  
ただいて、一生懸命真似はしたけれど模  
倣じゃないっていうことがよくわかりま  
した。何かこう、私かわかせてもらっ

たという感じで、運動会にもおもしろいものができそうです。

#### ◆おわりに

**C** それで私、この間から技術がなくてもということをしり分申しましたけれども、ただこれだけはしっかりおさえておかなければいけないことは、やっぱり先生たちが、今、自分が技術がなければ困る、ということを感じた時に、そこでやっぱり真剣にその技術をつけようという、動機になるんじゃないかと思えます。それまでおしやっつてはうそであって、先生たちが、技術がなきゃいけないと思ったその時点がその必要な技術を学ばなければいけない時であって、それに素直でなければいけないと思うのです。

**B** 子どもに見せるもの、聞かせるものは最高のものでなければだめなわけでしょう？ だから研鑽はいつもしていきやいけないということになりますね。

**C** そして、技術を追っかけるっていうことは限りがないものであって、どこまでいったら技術がうまくいっているかという評価のポイントっていうのはないわけなんです。そこに技術課程のきびしさもあると思います。そして私自身もこの考えでここまでできていますし、私たちが子どもと一緒にいる幸せということも感じています。もし私が論理だけの先生だったらこういうことも感じないだろうし、こういう立場になったことに非常に喜びをもっているんです。それで、論理がなくていいかと思ったら、それじゃいけない、ということも感じています。

**A** でも、夏休みの講習で、踊っていらっしやる時の先生を拝見してて、まあ、とても子どもになりきっていらっしやると思いました。

**C** それは、子どもの中に入れていただけだから、そういう気持ちになれたのだと思います。もし、前の私だったらそ

うじゃなくて、どうしたらきれいな形が出せるだろうかとか、足の上げ方がいいだろうか、すぐそういうことに気をとられていました。だけどやっぱり子どものことをやらなきゃならなくなって、どうしたら子どもの気持ちと一緒にになれるか、そういうことを追っかけているわけです。

**B** それがね、先生は基本がピッチッとしていらっしやるから、お子さんになってもさまになるんです。ですからわれわれは、基本をふまえていなければだめだということが……。

**C** もうそれはそうです。基本、子どもの基本と叫びたら、ともかく歩くことと走ることなんですよ、ころがることとか。だから、技術をとった時に、そこをしっかりとやるべきだと私は思いますし、学生にもいっています。

一同 それは本当にそうですね。

(おわり)